

所属している民生常任委員会で実施している「管外視察」ならびに「管内視察」を通じて感じ、思ったことを報告します。また、「音楽と出会うまち西宮」を体現したことも報告します。

## 民生常任委員会 管外視察

東京都墨田区は、東京の東部に位置し、西を墨田川、東を荒川に挟まれた地域です。近代軽工業発祥の地として、江戸時代、明治時代、大正時代、昭和時代と発展してきました。墨田区は全事業所数のうち製造業が17%を占める「製造業のまち」でした。「ものづくりのまち」として、まちの個性を継承しつつ、今後も「産業のまち」であり続けるために「産業集積のアップデート」を目指していくというビジョンを掲げ、SIC (Sumida Innovation Core) を結節点とした共創ネットワークの形成に至りました。

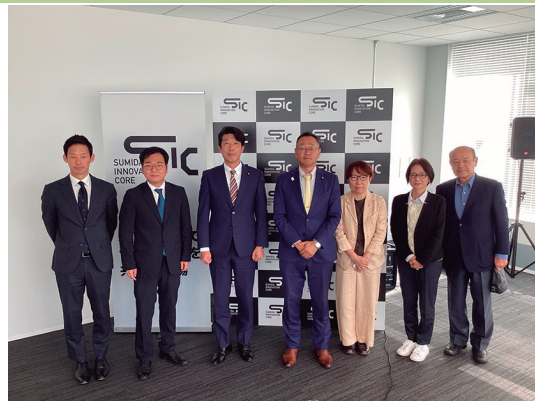
SICがハブの役割をして「ものづくりのまち すみだ」が継承・発展されていきます。墨田区の特徴が活かされた施設ということで大変意義深い視察でした。

全国一律な共創施設を造るのではなく、その土地その土



地の特徴を活かした共創施設にすることが大事だと感じました。例えば、大学の多いまち西宮、産業では酒造り、菓子、甲子園球場などの**特徴を活かした西宮市ならではの共創施設**となるよう取り組んでいただきたいと西宮市に提言しました。

他に、富山市「未来共創推進事業について」、荒川区「ゆいの森あらかわ」、台東区「食品ロス削減無人販売機 fuubo (フーボ)」の視察も行いました。



## 民生常任委員会 管内視察

### 船坂里山学校

明治6年に開校した旧船坂小学校は児童数減少のため平成22年3月に閉校となりました。しかし、閉校後5年間に及ぶ地元住民や関係者の保存活動と施設活用の熱意と努力により平成28年4月に西宮市立船坂里山学校として生まれ変わりました。



◎船坂里山学校

平成28年度から指定管理者制度を利用しており、施設利用として、ランチルーム、やまびこ教室、6年生教室、2年生教室、3年生教室、4年生教室、図工室、運動場、体育館を貸し出しています。施設全体の稼働率は11.4%(令和6年度)と低く、老朽化に伴い、工事や修繕といった施設維持管理費が増加することが見込まれます。費用対効果の面から船坂里山学校の在り方を議論する必要を感じました。

◎昭和レトロな雰囲気を感じる廊下



### 名塩和紙学習館

管理運営の一部を和紙学習館紙すき推進委員会に委託し、名塩地域の伝統産業である「紙すき」を実習・体験できる施設です。令和6年度において、常設展示解説事業/65回・181人、実習事業/51団体・1306人(市内内学校園33団体1114人)の実績があります。

「名塩紙」は兵庫県伝統的工芸品に、「名塩雁皮紙」は国の重要無形文化財に、「名塩紙技術」は県の無形文化財に指定されています。名塩雁皮紙は六甲山に自生する雁皮と名塩周辺で採取される泥土を加えて仕上げます。日焼けせずに長期保存に耐えることから、江戸時代中頃から近畿・中国地方では諸藩の藩札に用いられました。近隣小学校では、児童自身で紙すきをして作成した紙を卒業証書として使用しています。**数少ない西宮にある伝統産業・歴史を後世に伝えるため、また南部地域、北部地域の交流のためにも名塩和紙学習館の利用方法を考えるべきと考えます。**



◎和紙学習館での紙すき体験

## 「音楽と出会うまち西宮」を体現

「西宮市100周年記念まちなかにぎわい事業推進補助金」を活用し、9月に西宮地方卸売市場にて「アメリカンミュージックフェス in 西宮 Vol.1(2025)」を開催しました。高槻には「高槻ジャズストリート」、神戸新開地には「新開地音楽祭」があるように、**西宮に「アメリカンミュージックフェス in 西宮」を根付かせることで西宮の文化として、という趣旨での開催**でした。全国から参加いただき、多くの「来年も開催してね」というお声をいた

◎アメリカンミュージックフェス in 西宮 Vol.1(2025) (西宮地方卸売市場)



いただきました。

10月には阪神「鳴尾・武庫川女子大前」駅前公園にて「西宮キッズパフォーマーフェスタ」を開催しました。西宮の子どもたちがリアルに音楽を通じて感性や協調性を育み、同じ趣味を持つ者同士で一つのイベントを創り上げる楽しさや達成感を味わえる場を設けたい、との思いからスタートしたイベントでした。多くの方たちに参加いただき、まさに**「音楽と出会うまち西宮」**を体現できたと感じました。

◎西宮キッズパフォーマーフェスタ(阪神「鳴尾・武庫川女子大前」駅前)

